

令和5年度第1回田辺市森づくり構想策定等委員会 会議録

日 時	令和5年7月5日（水）午後1時30分～午後3時15分
場 所	田辺市役所 大塔行政局4階 会議室5
委 員	3名 ※欠席委員なし
傍 聴	報道1名
会議事項	1. 開 会 2. 議 事 (1) 令和4年度における事業実績について (2) 令和5年度における施策等の展開について (3) 現在検討中の新規施策等について 3. 閉 会

1. 開 会

2. 議 事

(1) 令和4年度における事業実績について

令和4年3月に策定した森づくり構想の基本理念や将来像、基本方針などを概要図により再確認し、基本方針に基づき令和4年度に実施した事業について、事務局から実績を説明。

【質疑応答】

(A委員)

森林の育てびと育成・確保対策事業について、令和4年度事業の繰り越し理由は何か。

(事務局)

事業者の公募が12月、間伐の施業開始が大雪が降った1月と重なったことや、新規に採用した従業者が安全に業務を行えるように講習期間を設けたいとの申し出が事業者からあったことから、令和4年度中に業務着手できない見通しとなり、繰り越しを行うこととした。

なお、繰り越し分の業務は、随時完了してきている状況となっている。

(A委員)

新規の4事業体は決まっているのか。

(事務局)

これから公募をかけていくところである。

(A委員)

令和5年度事業は早めの実施を心掛けてもらいたい。

(事務局)

早めに実施できるよう取り組んでいきたいと考えている。

(C委員)

森林環境教育推進事業について、子どもたちの反応はどうか。

(事務局)

子どもたちの反応としては、例えば上芳養小・中芳養小がひき岩に行った時には、「近いけれど行ったことがない場所で森林に触れて楽しい」といった反応があった。また、保護者としても、市がこのような事業をしてくれてとてもうれしいと好評をいただいている。ハンモック体験では、気に入った子どもが親にねだる場面もあった。ただ、山の中でのトイレの確保に苦労した。子どもたちは虫は割と平気な様子だった。

(C委員)

広報誌などで、写真入りのものが見られればと思う。

(B委員)

子どもたちの様子は、紀伊民報の記事に載っていた。

宿泊先はどこか。

(事務局)

本宮町内の施設を利用した。既存の取組であるキャンプとの融合も進めているところ。できる限り市内の施設を使っていこうと考えている。

(C委員)

廃校を利用するなどではできないか。

(事務局)

宿泊となった時、風呂等の衛生面が重要になってきており、林間学校等でも入浴が必須となっている。近くに入浴できる施設があれば検討は出来るが、民泊等も含めて関係団体と連携しながらアイデアを出し合っているところである。

(C委員)

景観と安全を守る山村集落森林整備事業への反応はどうか。

(事務局)

きっかけは、里山生活空間保全事業の相談があったことからで、区長の賛同もあり、景観と安全を守る山村集落森林整備事業を行うこととなった。50年生以上の人工林が人家裏に生えていて暗く覆っていたのが、明るくなり良かったとの反応があった。

(A委員)

全体を通じて、意見や反応、満足度などをアンケート等により継続して取っていくことで、事業の効果を市民に分かってもらえるのではと思う。自走式草刈機などは、刈払機と比べてどれくらい作業効率がアップしたか等のデータも取っておくとよい。今後の施策の展開にも重要なデータになってくる。

(事務局)

各行政局と連携し、アンケート等を実施していきたい。

(A委員)

木材ステーションは、補助をしなければ採算が取れないのか。

(事務局)

補助金で支援しても採算を取るのは難しい。枝葉には石が混じりやすいので、1億円を超えるような専用の機械が必要となり、加工までを含めた収支面では合っていない。ただ、事業

を行う中で、林業事業体とのつながりができ、連携して集荷を行うなどの副次効果が出ている。

(A委員)

集荷が難しく、燃料を外から買った方が楽ということになると、本来の趣旨と反していることになる。紀南の資源を使うことをしっかりやらないといけない。なぜ木質バイオマスなのかを考えながら、森林環境譲与税を使って支援をしているのは、地域の未利用材を地域の中で使っていくことが大切だからです。よとPRしながらやっていると、税の趣旨も活きてくる。また、どれくらい未利用材が使われるようになったというところも示せればと思う。

(C委員)

木材ステーションは大事。田辺市は風力発電がなく、太陽光発電は熊野古道等の関係で規制をかけている中で、国の方針でもある再生可能エネルギーの促進として、海洋風力という案も出ているが、田辺市は観光が重要な産業でもあり、慎重に考えないといけない。そういったものの代わりに未利用材を燃料としたエネルギーをもっと積極的に使いたいということを出していくのが必要ではないかと思う。

また、古い焼却場をきれいにしてエネルギー発電に使うということも可能になってきていると聞くので、併せてやっていくこともできるのではないか。田辺市全体でエネルギーを生産するという見方を考えたらどうか。また、古い家庭ごみの焼却場を譲与税を使って建て替えられるのではないか。

(事務局)

元々山に放置されて、大雨の時などには川に流れて堰止まったりといった山の環境への悪影響もあったため、出してきて利用するという環境面の流れは作っていきたい。その中で、委員の言われるような大きなサイクルができてくればいいが、まずは山の残材の再利用から取り組んでいるところである。

(C委員)

事業の効果をもっと積極的にアピールしても良いのではないか。

(事務局)

森づくり構想の推進に向け、今は各種事業を展開することに力を入れているが、HPや広報担当と連携しながら、事業成果の発信も近いうちにできればと考えている。

(A委員)

森づくり構想の中だけではなく、市全体の循環型の施策等との連動も必要になってくると思う。木材ステーション事業は、木質バイオマス発電という規模の大きめなものとの連携事業だが、もっと規模の小さい、熱も利用できるホテル用ボイラーなど、地域の中で循環させるような取り組みを合わせてPRしていくことが大切。龍神村内の宿泊施設での取組は良い事例で、近隣にも波及している。

譲与税自体が、再生可能エネルギーを通じて、日本の山がよみがえることで、環境・経済・社会も良い方によみがえっていくということが趣旨で導入されているところもあるので、しっかり取り組んで欲しい。

(2) 令和5年度における施策等の展開について

令和5年度に実施予定の事業について、新規施策を中心に、事務局から説明。

【質疑応答】

(C委員)

木のやさしさや温もりを感じることのできる空間づくり事業に絡め、新庁舎完成後の旧本庁舎・総合センター跡地に、木製の遊具が置いてあって雨の日に子どもが遊べるスペースや、木質の床を使ったシニア向けの卓球場やバドミントン場があれば良いと思う。

また、新庁舎の中にも木製ベンチの待合所や木製遊具が置いてある空間があっても良いのではないか。

(事務局)

新庁舎にはキッズスペースが設置される予定。そこには木製品が設置されると聞いている。総合センター跡地活用については整備室を設置し検討している段階であり、森林局からも木を使った空間づくりの提案ができるよう、連携しながら進めていきたい。

(A委員)

木のやさしさや温もりを感じることのできる空間づくり事業は良い事業。木育キャラバンをやっている方からは、気が付いたら木のイメージが田辺になくなってしまっていたという感想を聞いたことがある。

また、木育では遊具や空間も大切だが、「何を感じてほしいか」という趣旨をガイドするインストラクターが大切。木育インストラクター研修を保育園の先生や保護者にできれば良い。色が付いたカラフルなものが良いと思いがちな保護者もあり、親の触れたものに子供も触れていくため、保護者に木の良さを知ってもらう仕掛けづくりになると思う。

年齢や学年に応じたイベント・アクティビティ案内の田辺版・紀州材版を作るとより活用してもらえるのではないか。新庁舎も木のあふれる空間として広まれば良い。

(A委員)

構想の中で、着手できていない分野はあるか。

(事務局)

庁内で連携して取り組む部分については、今後さらに強化していきたい。木のやさしさや温もりを感じることのできる空間づくり事業では、森林局と児童館それぞれ予算を持っているが、入札を一緒に行うなど連携して実施している。

(A委員)

資料の中にも連携面が入ると、市一体で取り組んでいることが感じられると思う。

(3) 現在検討中の新規施策等について

現在庁内で検討している新規施策等について、事務局から説明。

3. 閉 会